

水、黄疸、腹壁静脈怒張、食道・胃静脈瘤、意識障害肝性脳症、出血傾向等の他覚所見がある。

- (3) 検査成績としては、まず、血液生化学検査が行われるが、さらに、免疫学的検査、超音波検査、CT・MRI検査、腹腔鏡検査、上部消化管内視鏡による食道・胃静脈瘤検査、肝血管造影等が行われる。
- (4) 肝疾患での重症度判定の検査項目及び臨床所見並びに異常値の一部を示すと次のとおりである。

検査項目/臨床所見		基準値	中等度の異常	高度異常
血清総ビリルビン (mg/dl)		0.3~1.2	2.0以上 3.0未満以下	3.0以上超
血清アルブミン (g/dl) (BCG法)		4.2~5.1	2.83.0以上 3.5未満以下	2.83.0未満
血小板数 (万/μl)		13~35	5以上 10未満	5未満
プロトロンビン 時間 (PT)	(%)	70超~130	40以上 5070未満以下	40未満
	(秒) (INR)	10~14 —	4以上 6未満以下の延長 1.7以上 2.3以下	6以上超の延長 2.3超
γ-GTP (ALP) (Bessey法)		0.8~2.3	3.5以上 10未満	10以上
γ-GT (CHE)		—	診療施設基準値に対して、明らかに病的な異常値のもの	
腹 水		—	中等度 (*腹水あり)	高度 (**難治性腹水あり)
脳 症 (表1)		—	I度 (*)	II度以上 (**)

*—治療により軽快するもの

**—治療により軽快しないもの

—(注)—ALP及びCHEの検査成績は、測定方法や単位により異なるので注意

すること

表1 昏睡度分類

昏睡度	精神症状	参考事項
I	睡眠-覚醒リズムに逆転。 多幸気分ときに抑うつ状態。 だらしなく、気にとめない態度。	あとで振り返ってみて判定できる。
II	指南力（時、場所）障害、 物を取り違える（confusion） 異常行動 （例：お金をまく、 化粧品をゴミ箱に捨てるなど） ときに傾眠状態（普通のよびかけで開眼し 会話が出来る） 無礼な言動があったりするが、他人の 指示には従う態度を見せる。	興奮状態がない。 尿便失禁がない。 羽ばたき振戦あり。
III	しばしば興奮状態またはせん妄状態を伴 い、反抗的態度をみせる。 嗜眠状態（ほとんど眠っている）。 外的刺激で開眼しうるが、他人の指示には 従わない、または従えない（簡単な命令に は応じえる）。	羽ばたき振戦あり。 （患者の協力がえられる 場合） 指南力は高度に障害。
IV	昏眠（完全な意識の消失）。 痛み刺激に反応する。	刺激に対して、払いのける動 作、顔をしかめるなどがみら れる。
V	深昏睡 痛み刺激にもまったく反応しない。	